

## ■2020 栄光サッカークリニック(第 5 回実施レポート)

◇日時:2020 年 12 月 19 日(日)14:30~16:30

◇場所:片瀬中学

◇参加:千野コーチ

◇内容:湘南ブロック新人戦第 3 戦の試合観察

### (1)概要

R2 年度湘南ブロック中学サッカー新人戦の第 3 回戦トーナメントを観察。

### (2)試合経過

・栄光 0(0-1,0-1) 2 浜須賀

・立ち上がりのコーナーキックからニアであわされ失点。攻撃のかたち作れず後半に入る。危ない場面もあったが 3 回ほど得点チャンスがあった。しかしシュートが GK の正面あるいは枠外になってしまい追いつくことができない。

・終了5分前にゴール右上隅に見事なミドルシュートを決められ勝敗が決してしまった。

### (観戦レポート)

・前半は相手チームのプレーメーカーからの右サイドへの展開に対応できず、この流れの中からの CK から失点。攻撃が機能しない理由としてパスに対してのインターセプトの意識は高くなっているがドリブルに対しての対処ができていない。

・この状況は J の下部組織にもみられ、パスサッカーをあまりにも重視するあまり相手のドリブルに対して簡単に突破を許してしまっている。

・この問題を解決するヒントはオシムが言っていた次の言葉の中にある。

>「良いディフェンダーを育てるためにはチームの中にドリブラーが必要である」

>つまりドリブラーに対応しなければならない状態を普段の練習の中に作り出すようにするということである。

・ドリブルの得意な選手の特徴を活かすことによりディフェンダーの 1 対 1 の対応能力を高めていきたい。

・ヘディングの強化は急務である。

>高い打点でとらえることは勿論、ただ遠くにとばすという意識を改善する必要がある。

・常に仲間の位置を意識してボールを繋ぐことが重要。

>強く遠くにとばすではなく、確実に仲間に繋がるヘディングを意識させたい。

>CK でもヘディングの強化ができていればもう少し結果は変わっていたように思われる。

・今日の試合の CK では全て相手に先にボールに触られていた。

>これは習志野高校時代の本田先生から学んだことだが、CK は守ろうとして受けてしまうと走り込

んでくる勢いに勝つことはできない。

>ペナルティエリアの逆側にゴールがあると思えばディフェンダーが得点するつもりで望まなければ競り負けてしまうと言っていた。

・簡単に言えば、守ろうと意識するより相手より先にボールに触れるようにすれば失点は確実に減るということだ。

・最後に CF についてだが、ボールが収まらない理由にボールコントロールだけでなく、相手の身体のコントロールができていないことがあげられる。

・ボールを受ける時に相手を押さえる技術の進歩が必要であると思われる。

(千野)